

# 住人十色

第 44 回

## 昔の宝物を大切に残してきた内子で 伝統ある曲独楽を生かしていきたい

三増<sup>みまさ</sup>巳<sup>みや</sup>也<sup>や</sup>（本名・福岡<sup>えみ</sup>恵巳<sup>み</sup>）さん（47）内子10



◎敬老会などの地域行事で芸を披露することも多い巳也さん。  
地元で伝わる「伊予のちょんがけ独楽」の継承にも取り組む

日本で3人しかいない女性曲独楽師の一人として活躍する「三増巳也」さん。東京で、両親とも芸人の家に生まれ育ち、小学生の時には父親から皿回しを習っていたといいます。その後、三増紋也<sup>もんや</sup>師匠の弟子に入り、17年間活動。そして、町内で料理屋を開くご主人と出会い、結婚して内子に移り住みました。現在は、子育てをしながら、料理屋の手伝いと二足のわらじを履いて奮闘する毎日です。

曲独楽とは、大小の独楽を操り演じる曲芸。江戸の町民文化の中で大道芸として広まり、寄席や宴席で親しまれてきました。しかし現在、国内の曲独楽師は10人足らず。作り手も2人だけとなり、継承が危ぶまれています。「何とかしたい」と試行錯誤してきましたけれど、個人の力には限界がある」と巳也さん。しかし、「日本の伝統芸能は時代に合わせて少しずつ変化しながら、たくましく生き残ってきた。今あるものを生かし、今いる人に喜んでもらえる芸を見せることが、生き残りにつながると思う」と語ります。

「内子は建物や道具、それを作る人や使う人の知識など、昔からの宝物がたくさん残っている。その中に生かせるものがあるのではないかと、かすかな期待を胸に、芸を磨き、演じ続けています。」

### 編集幸記

▽2013年の幕開けです。毎日、毎号、「少しだけ上を目指して」が、私の目標。実現はたやすくありませんが、今年もまた新しい1年を迎えられたことに感謝して、一歩ずつ大切に進んでいきたいと思えます。(み)

▽自分の時間を犠牲にすることになるボランティア。でも活動を通して広がる交流や経験、地域を支えていると実感できる成果を考えると、自分にとっても重要な価値があるなど感じます。これからもボランティア頑張っていきたいですね。(カ)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の  
フリーダイヤル  
☎0120(44)2130

